

令和7年度の学校評価

項目	重点目標	具体的な方法	留意事項	重点目標の番号	評価の結果及び課題
					評価の結果及び課題
本年度の重点目標	<ul style="list-style-type: none"> ①授業づくり <ul style="list-style-type: none"> ・教職員一人一人の専門性の向上を図り、発達段階や年齢、特性に応じた指導・支援をする。 ・授業実践をもつて校内研究のまとめをし、12年間の学習の系統性を整理する。 ・デジタル教材と印刷教材のバランスを考え、学習効果の高い指導方法を研究する。 ②安全・安心対策 <ul style="list-style-type: none"> ・感染症や気象情報、防災情報などに最新の情報に基づいて検証し、迅速な対応につなげる。 ・激甚災害時など非常事態の備えについて再度確認し、実際に近い形で繰り返し訓練をする。 ・児童生徒にとって安全で安心してできる学校であり、教職員も児童と向き合える職場であることを目指し、多角的に学校環境を見直し、改善を図る。 ③地域連携 <ul style="list-style-type: none"> ・学習に地域資源を生かし、年齢に応じて身近なところから社会性を身に付けられるようにする。 ・地域の特別支援教育力向上のため、積極的に情報発信をし、協力を促す。 ・効果的な学習や卒業後のよりよい生活のために、医療や福祉、入学前施設や進路先など関係機関との連携を図る。 				
小学部	<ul style="list-style-type: none"> ①細々の児童の課題に即した指導・支援のために自立活動の充実を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> ①研修と授業参観を通して、実態から考えられる課題に基づいた重点目標を設定し、学校生活全体での取組と時間の指導の中での取組を検討し、実践する。 	<ul style="list-style-type: none"> ①自立活動年間指導計画のより一層の活用を進める。自立活動部、教務主任と連携し、部会後にミニ研修会を行い、小学部児童に合った目標設定、時間の指導の具体的な内容を紹介します。職員の自立活動についての知識を深める。参観週間を利用して自立活動の授業参観を勧め、実際の授業づくりの参考にします。 	①	<ul style="list-style-type: none"> ①自立活動部と連携した研修では、1時間目のタイムスケジュール例や、つけたい力に向けて自立活動の時間に行える実際の活動例を紹介した。アンケートでは、自立活動の指導の充実に向けて、参考になったとの意見が多かった。これまでの手先の巧緻性重視の個別課題のみでなく、内容にも広がりが見られ、目標を意識した活動が増えた。初任者を中心に、モデルとなる授業の参観を勧めたことで、自立活動の授業への意欲の高まりの声も聞かれた。今後も目標を見据えた内容を検討し、より自立活動の指導の充実を図りたい。
中学部	<ul style="list-style-type: none"> ①生徒の心と体の成長を理解し、適切な時期に必要な指導・支援を行うための年間指導計画を作成する。 	<ul style="list-style-type: none"> ①中学部の保健体育科年間指導計画について、保健の授業内容、時期などを3年間の系統性を考慮し、授業実践をとおして作成する。また、生徒の心や体の変化をよく観察し、問題があれば、担任を中心に、学年・部内で共有し解決策を考えていく。 	<ul style="list-style-type: none"> ①年度初めに保健体育科の年間指導計画をそれぞれの学年や中学部体育科で見直し、必要な時期にどのような内容を指導していくかの計画を立てる。その際に、学校保健計画から養護教諭や栄養教諭の助言・協力をいただきながら、手洗いや歯磨き、食育、性教育などの指導内容をとり入れ、計画に沿って授業実践、参観をし、反省・評価、改善を行うことで3年間の系統性のある指導計画を作成する。合わせて生徒の心と体の変化をよく観察し、必要場合は保護者、養護教諭、栄養教諭、スクールカウンセラー、学校医、かかりつけ医などと連携し、問題解決を図る。 	①②③	<ul style="list-style-type: none"> ①2学期に取り組んだ歯磨き指導は日常生活の指導として毎日の繰り返しの中で学ぶ方がより効果的であるとの反省があった。食育指導は教材作りが工夫されており、楽しく栄養素等の学習ができた。今後も継続した指導をし、偏った食生活にながらな生徒に対しては有意識づけしていきたい。3年間の系統性については大幅なステップアップよりも振り返りと改善を兼ねた指導内容の定着をすようしていきたい。また、保護者と連携し、1名の生徒をスクールカウンセラーへ繋げて多面的な支援をすることができた。
高等部	<ul style="list-style-type: none"> ①高等部の教職員一人一人が専門性の向上を図り、生徒の指導・支援に生かす。 	<ul style="list-style-type: none"> ①積極的に授業を参観し、専門性の向上や授業づくりの充実を図る。校内の研修などに主体的に参加し、専門的知識や技能を身に付ける。 	<ul style="list-style-type: none"> ①授業参観を高等部6回、他部6回、一人当たり12回以上を目安とする。夏季校内研修、eラーニングなど(現職研修を除く)校内での研修に一人当たり3回以上の参加を目安とする。参観や研修の後、簡易表記入する。 	①	<ul style="list-style-type: none"> ①授業参観について、全体としては76%の達成率であった。そのうち小学部への参観が17%、中学部25%、高等部58%である。例年と比べ、校内研修、授業以外の参観が増えた。研修について、全体としては15%の達成率であった。そのうち校内研修が50%、eラーニング22%、その他28%であった。ただし、全体としての数字のため、いずれも個人差がある。また、これを通して、学校生活における指導、支援に生かすことが課題であった。
総務部	<ul style="list-style-type: none"> ①保護者や地域、関係機関へ学校の様子を周知することに努める。 	<ul style="list-style-type: none"> ①学校要覧や学校だより、校外作品展などを通じて効果的な情報発信を行う。紙面を工夫したり作品の展示方法を工夫したりする。 	<ul style="list-style-type: none"> ①今年度から学校要覧の形式を大きく変更したため、来年度によりよい紙面となるよう検討する。学校だよりは、各学期末に1回、年3回の発行を継続し、各行事や児童生徒の活動の様子を備わりのように記載し、学校全体の様子を伝えるようにする。伸びゆく子どもたちの作品展を校外作品展では、校内への周知、作品の回収、搬入準備や搬入・搬出などの計画をし、児童・生徒の作品が生かされるような作品展となるよう検討する。 	③	<ul style="list-style-type: none"> ③学校要覧は、変更が必要がある写真を各部署で精選して次年度に向けて準備している。学校だよりは、各担当が必要な写真を揃えるようにし、早めに記事を確認し、行事の様子や伝わるような紙面になるように計画してきた。作品展は、美術科を中心に総務部全体で作品の回収や郵送、搬入や搬出を行った。複数の担当者で計画的に準備を進め、搬入・搬出の経験者を増やしていくことで、今後も継続して行えるようにしたい。
教務部	<ul style="list-style-type: none"> ①児童生徒の主体的・対話的で深い学びにつながる授業実践を通して授業改善へ意識を高める。 	<ul style="list-style-type: none"> ①全職員に向けて、主体的・対話的で深い学びについてやR6から改善した学習シートの意図や作成方法について周知を図る。学習シートを作成して年間2回の授業実践を行い意見交換の場を設ける。 	<ul style="list-style-type: none"> ①研修部と連携を図り、授業実践する時期を調整したり、授業実践の進め方について適宜説明したりする。授業実践にあたり、他学部、他教員のさまざまな職員の授業が見られるように計画を立てる。必要であれば時期を調整する。東知研で行う授業については、校内研究グループ、学部、学年の職員で意見を出し合い、みんなで授業を作りあげていくようにする。 	①	<ul style="list-style-type: none"> ①東海地区特別支援学校の障害教育研究大会では、参加者から学習シートの内容や公開授業の内容に対してより評価をいただいた。本校職員の「主体的・対話的で深い学び」につながる授業づくりの意識や理解が高まった。今後も校内研究の成果を生かして授業づくりのポイントを教務部から発信し続ける。
保健体育部	<ul style="list-style-type: none"> ①自分の健康を守ることで児童生徒の育成を目指す指導・支援の充実を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> ①栄養教諭・養護教諭と連携し、偏食や肥満に関する取組を充実させる。(事例の集約・共有や偏食・肥満に関わる研修の開催等) 	<ul style="list-style-type: none"> ①R7年度は、肥満や偏食に焦点を当て、健康づくりのグランドデザインを提示し、肥満以外の健康課題についても意識してもらい、運動月間は継続して行い、より多くの児童生徒に取り組んでもらえるよう、実施方法や告知方法を工夫していく。 	①	<ul style="list-style-type: none"> ①肥満・偏食指導については、発達障害児の偏食・肥満に関する講習会を教職員、保護者を対象に実施した。肥満指導は希望の生徒、保護者を対象に年3回の食事指導に加え、栄養教諭と個別相談を設定し、意識付けをした。健康づくりのグランドデザインについて、取組を集約し、職員に周知した。運動月間については、事前に全校周知し、児童生徒の実態に合わせて学級単位で実施した。今後も継続して運動に取り組めるよう実施方法を工夫したい。
生徒指導部	<ul style="list-style-type: none"> ①児童生徒が安心して学校生活を送ることができるよう、学校指導や現職研修で活用できる動画を作成する。 	<ul style="list-style-type: none"> ①児童生徒が安心して学校生活を送ることができるよう、学校指導や現職研修で活用できる動画を作成する。 	<ul style="list-style-type: none"> ①児童生徒が健康診断を理解できるよう、健康診断の手順の動画を制作して、学級指導での指導・支援を行う。正しい嘔吐処理の動画を制作し、感染の二次被害を防ぐ手技を教職員に伝える。 	②	<ul style="list-style-type: none"> ②実際の健診の様子を動画撮影し、児童生徒が見通しをもって受診できるように説明動画を制作することができた。今後、学級での事前指導に活用しては、嘔吐処理動画も制作し、職員に周知した。今後、職員が動画を確認し、適切な嘔吐処理ができるようにしたい。
進路指導部	<ul style="list-style-type: none"> ①進路指導部と連携して進路指導の充実を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> ①理想と現実のギャップを複考して訓練を実施する。 	<ul style="list-style-type: none"> ①実際に近い形で訓練を行い、臨機応変に対応する力を高める。また、情報図書部と連携して、アプリ(シグファー)を利用して、保護者に向けて安否確認の訓練を行う。 	②	<ul style="list-style-type: none"> ②第1回・第2回とも、より実際に近い形で避難訓練を実施できた。訓練を通して職員の意識向上につながった。また、職員の反省アンケートの結果を踏まえ、来年度の訓練に生かした。安否確認訓練では、情報図書部と連携して実施した。今後、実際に激甚災害が発生した際には、誰がどのような方法で情報を送信するのかについて、さらに検討する必要がある。
自立活動部	<ul style="list-style-type: none"> ①外部専門家との連携の充実を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> ①専門家による指導・助言の場を設定したり、研修を実施したりする。 	<ul style="list-style-type: none"> ①子ども発達センターとの連携に関する取組を教育支援部から引き続き、自立活動の指導の充実につながる内容として継続する。また、必要に応じて関係機関と連携する。産業科の全生徒については、スクールカウンセラーと面談する時間を設ける。また、必要に応じていじめ不登校対策委員会を開催し組織的に対応する。 	①②③	<ul style="list-style-type: none"> ①子ども発達センターの定期相談会を年間3回実施した。新たな取組として、定期相談会終了後に行った来年度に向けての打ち合わせにおいて、相談した児童生徒の経過報告をし、相談したにたいして、夏休みや行事についての対応の仕方や指導内容を教えた。また、課題については、大学教員を講師として引き続き実施した。今後も継続して子ども発達センターを始めとした外部専門家と連携して自立活動の充実を図るようしていきたい。
研修部	<ul style="list-style-type: none"> ①東海地区特別支援学校の障害教育研究大会を実施した。 	<ul style="list-style-type: none"> ①引き継がれた資料を元に計画的に進めるとともに、検討する場を十分に設けたり共通理解できる手段を設けたりする。 	<ul style="list-style-type: none"> ①期日に余裕をもって計画を立てる。各分掌や外部機関と密に連絡を取り、進捗状況などを確認する。検討する場を設けて、多くの視点で大会を考える。学校全体で運営できるように共通理解を図るための工夫をする。 	①	<ul style="list-style-type: none"> ①10月31日に東海地区特別支援学校の障害教育研究大会を実施した。運営面では、実行委員会を中心に各分掌や、学級で実施計画を基に意見を出し合い、検討や計画の見直しを繰り返したことで大きなトラブルなく終えることができた。事後アンケートでは、参加者から学びが深まったなどの意見があり、意義のある大会となった。引継に向けて資料の作成や整理を進めている。
情報図書部	<ul style="list-style-type: none"> ①図書室や本の扱い方について、正しい習慣が身に付くように通信や掲示物を改善する。 	<ul style="list-style-type: none"> ①児童生徒が本を大事に扱い、整頓して返却する習慣を身に付けるように、通信や掲示物など分かりやすく提示する。 	<ul style="list-style-type: none"> ①校内研究の内容を、新転任者を含め全体に早めに周知する。流れを明確にして、計画的に進められるようにする。 	①	<ul style="list-style-type: none"> ①年度初めに研究全体計画を周知し、各グループリーダーと連携しながら、「主体的・対話的で深い学び」につながる授業を目指し、1・2学期に多くの職員が学習シートを作成して授業実践を行うことができた。代表授業を中心に振り返りを行い有効な手立ての共有や改善点を考え、本年度の課題をふまえて年間指導計画モデル案の改訂を各グループで行った。これからの研究を基に3年間の研究全体をまとめることができた。
教育支援部	<ul style="list-style-type: none"> ①校内支援についての仕組みを再整理する。 	<ul style="list-style-type: none"> ①校内職員ニーズに対応できる校内支援について検討し、各業務の役割やねらいについての整理・改善を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ①校内支援を「くすのきサポート」という名称に変更し、その取組についての周知を定期的に行う。「相談シート」を活用した相談等を実施し、校内職員のニーズを把握したり、相談の内訳の集計を行ったこと取組のフィードバックを行う。 	①②③	<ul style="list-style-type: none"> ①研究授業や東知研発表など、動画や音声データをサーバーに保存し、活用できるようにした。別の時間に動画データを見て研修でき、効果的であった。ただ、どのくらいの人数が利用したかが把握できなかったため、稼働支援システムのアンケート機能を活用して、調査したい。
多文化化	<ul style="list-style-type: none"> ①業務改善及び効率化を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> ①業務改善の具体的な提案を収集し、業務の効率化や業務均等化を継続的に図る。 	<ul style="list-style-type: none"> ①業務改善の具体的な提案を募り、効率的で継続的な方法を検討する。具体的に業務を効率化しながら、個々の意識を高められるよう促していく。 	②	<ul style="list-style-type: none"> ②施設時刻を30分早めたことと毎週の定時退校日が定着した。各々の職員の効率化や仕事を進める工夫が見られ、時間外在校時間が昨年度よりも月平均2時間0分程度減少した。
学校関係者評価を実施する主な評価項目	<ul style="list-style-type: none"> ①児童生徒の発達段階や年齢、特性に応じた指導・支援の充実 ②児童生徒が安全・安心して学校生活を送るための環境整備及び指導・支援の充実 ③積極的に情報発信による保護者や地域、関係機関との連携 				